

工学倫理と社会諸学

東京大学先端科学技術研究センター

牧原 出

(1) はじめに：グローバル化と「徳の失墜」

『朝日新聞』 2023年6月23日

グローバル化による富の偏在が生み出すグローバル・リベラル・エリートの徳喪失

遍在する富を利用する工学研究には「徳」はあるのか？どのように徳を保つことができるのか？

インタビュー

グローバル化の果て

オピニオン＆フォーラム

朝日新聞 2023年6月28日 朝刊 11ページ 東京本社

富の偏在 進み固定 徳の失墜と無関心 民主主義が劣化

「グローバル化は進み固定...」

「グローバル化は進み固定...」

「グローバル化は進み固定...」

政治学者

まきはら いづる
牧原 出 さん

1967年生まれ。2013年から東京大学先端科学技術研究センター教授。専門は政治学、比較行政学。著書に「田中耕太郎」「能力移行」など。



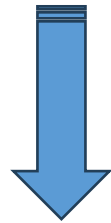
共存へ希望なお 新たな壁阻止へ 日本の転換も鍵

「共存へ希望なお...」

「共存へ希望なお...」

(2) 研究抑制型倫理と研究促進型倫理

➤ 社会諸学と工学の交流不足
倫理による「歯止め」重視



➤ 研究を加速・発展する「倫理」とは何か？

➤ 同時代への社会還元・社会実装とその基礎の探究を同時展開

司法権の独立と専門家の中立性

- ①最高裁判所長官を務めた田中耕太郎の「独立」
- ②COVID-19対応の尾身茂氏の「専門家の中立性」

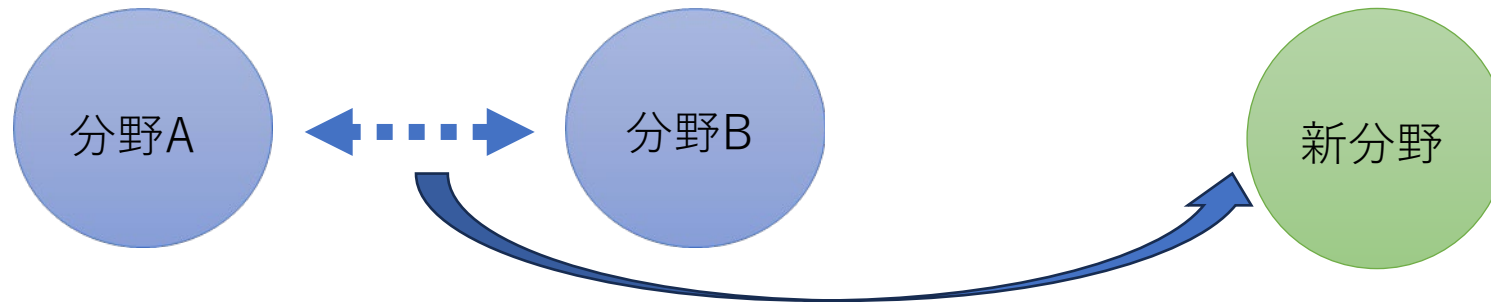


(3) 研究分野間の連携：ホットスポットの探究

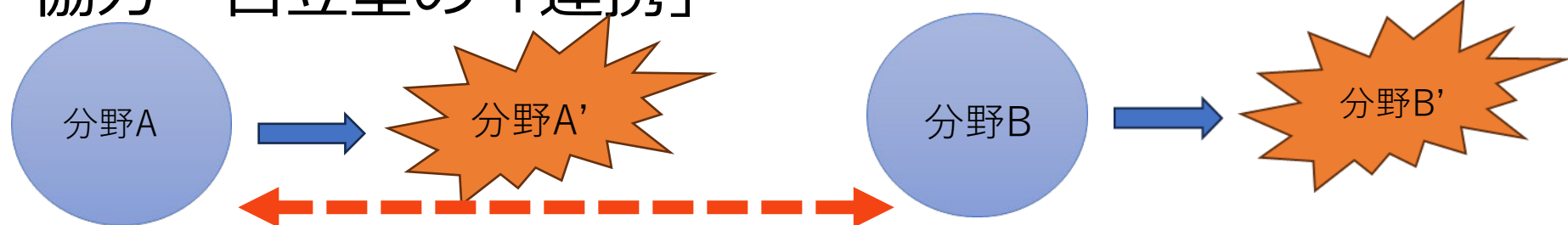
①従来のモデルI：併存型の形式的な「連携」



②従来のモデルII：タコツボ再生産型の「新分野創出」



③共存・協力・自立型の「連携」



(4) 社会連携におけるアカデミアの倫理：同等性と双方向性

① 「政治家と科学者の対話の会」プロジェクト

政治学のファシリテーターとしての存在価値

政治の方向性と科学の指向性：どう同等性のもとで同調させるか？

② 地域共創リビングラボ：地域連携における双方向性の難しさ

一方的な連携の意気込み表明になりがち
他方で細かい連携の知恵も蓄積されている



双方向性の難しさ

「バックヤードとしての『地域』」

→分野間連携の可能な機会が広がる場

どう地域を巻き込めるか／どう（複数の）地域が関われるか

（5）社会正義の実現としての工学倫理

- 新しさに伴う正しさとは何か？
- 新しさへ向かう倫理としての「研究倫理」
従来は手続的正義への偏重
- ゴールの倫理性：**未来社会の正義とは何か？**
今後は内容的正義の探究